2
2024
三重病院
ニュースレター
news letter vol.289

01 “炎症性腰背部痛”をご存知ですか?
02 臨床研究部からのお便り[51回]《南3病棟》病棟紹介
03 こども健康教室／1病棟のせいかつ
04 外来ニュース 5病棟の生活のひとコマ㊻
05 通所支援事業のひとコマ やまばとギャラリー情報コーナー 異動のごあいさつ／今月のみえツゥちゃん
06 病院からのお願い 外来診察のご案内

# “炎症性腰背部痛”をご存じですか?

皆さんは“炎症性腰痛”あるいは“炎症性腰背部痛”というものをご存じでしょうか?

簡単に言えば“運動で楽になる腰痛”です。

運動で楽になるならいいのでは、と思われるかもしれませんが、この腰痛は強直性脊椎炎という疾患に特徴的なものとして知られています。

強直性脊椎炎とは体の中心部、脊椎関節(背骨)や仙腸関節(おしり)、胸鎖関節(前胸部)などの関節に炎症を起こし、放置するとゆっくり進行して関節が強直し、腰が曲がらなくなったりする可能性のある疾患です。脊椎関節炎という疾患グループに属する代表的な疾患ですが、このグループに属する疾患には以下のような特徴があります。

## 筋肉と骨がくっついている付着部という部位に炎症の中心がある

同じように関節が痛くなる病気に関節リウマチというのがありますが、関節リウマチが関節を覆っている滑膜という部位に炎症があるのに対し、脊椎関節炎という疾患グループの病気は、付着部の炎症が関節まで及んで関節炎を起こしてきます。

## HLA-B27が陽性

HLAとは白血球の血液型のようなもので、多くの型があり一人で複数の型を持っているのですが、脊椎関節炎の患者さんにはB27という型を持っている人が多いことが知られています。もちろん陰性の患者さんもいますし、陽性だからと言って全員が発症するわけではありません。

脊椎関節炎の中でも強直性脊椎炎の特徴として、40歳未満で発症し、男性が女性の2～3倍多いというものがあります。最も多いのは20歳代男子で、小児、特に中高生にも多くいると推察されています。

この強直性脊椎炎に特徴的な症状が炎症性腰背部痛と言われるものです。

ASAS(国際脊椎関節炎評価学会)では炎症性腰背部痛について以下のような診断基準を定めています。

1. 発症年齢が40歳未満
2. 緩徐な発症
3. 運動で改善
4. 安静での改善無し
5. 夜間の疼痛

この5つのうち4つを満たすものを炎症性腰背部痛と診断します。

炎症性腰背部痛は通常使用される痛み止め(NSAIDs)で改善することも知られています。それで完全に治まってしまえば問題ありませんが、しばしば繰り返してくるようなら別の治療法が有効な場合があります。

さらに、強直性脊椎炎をはじめとした脊椎関節炎では、様々な合併症が知られています。

中高生男子で夜から朝にかけて何となく腰が痛い、でも動くと楽になるから放置している、あるいは薬を飲むと楽になるという人はいないでしょうか?その痛みは炎症性腰背部痛の可能性があります。

当院は小児リウマチと小児整形外科の専門医がいる三重県で唯一の病院です。若いのに腰痛がしばしばあるという方、ぜひ一度ご相談にいらっしゃってはいかがでしょうか。

(小児科医長　篠木　敏彦)